

第3回尼崎市子育て政策懇話会 議事要旨

日時	令和7年6月27日(月) 15:00~16:30
開催手法	対面形式
出席者	安藤構成員、瀧井構成員、筒井構成員、松本市長、吹野副市長
事務局	総合政策局長、政策部長、都市政策課長、都市政策課職員

1. 開会

2. これまでの議論の振り返り

<事務局から説明>

3. 意見交換

<事務局から説明後、意見交換>

- ・ 子育て世帯に対する、ライフステージごとの行政の取組や、経済的・時間的・心理的負担が可視化できた。
- ・ 子育て世帯に対応する職員にヒアリングを行うことで、現場のリアルな課題が明らかになった。
- ・ こうした市民の声や、行政の現場の声を政策に反映する姿勢が信頼感につながり、重要。
- ・ 多子世帯支援の必要性を感じる一方で、支援を受けられない世帯の不公平感も課題。
- ・ また、保護者の声として、保育料や送迎負担が大きいという声が届いている。
- ・ きょうだいで保育施設が分かると送迎の負担が非常に大きい。切実なニーズだと実感している。
- ・ 支援金を多子世帯だけに給付するよりも、制度利用時の負担減免の方が、他の世帯にも理解されやすい。
- ・ 実現性が高く、保護者の負担軽減に直結するような支援が望まれる。
- ・ 多子世帯の負担軽減のため、ファミリーサポート事業（以下、ファミサポ）や産後ケア事業の認知度を高めていくことが必要。利用しやすくするための工夫やお試し利用の機会があれば望ましい。
- ・ ファミサポは最初に使うハードルが高い。利用経験を積むことで、いざという時に頼れるようになる。企業の育休復帰セミナーで、預ける練習をする事例もある。
- ・ サポート側のアップデートも必要。利用者が安心して使える仕組みづくりが求められている。
- ・ 子育て支援と親のキャリア支援は不可分。コワーキングスペースやキャリア相談の場が働き続ける環境づくりに役立つ。

- ・ 育休を夫婦で分担するなど、柔軟な働き方が広がっている。働き続けながらキャリアアップできる支援が必要。
- ・ 産業部門や経済団体と連携し、企業を巻き込んだキャリア支援の強化が必要。
- ・ ライフプランやキャッシュフローの可視化によって、将来の不安を減らしていくことが、出生数増加にもつながる。
- ・ 実際に数字を見て将来設計ができると安心感が高まる。経済的知識の有無で不安感が変わる。
- ・ 育休期間中の収入をシミュレーションできる仕組みなどがあれば、夫婦での育休取得促進につながる。
- ・ 市独自のストーリーやメッセージ性を持った政策展開が望まれる。市民参加型の議論を重視していくことが重要。

4. 今後の進め方について

- ・ 多子世帯支援の具体策の検討を進めるとともに、キャリア支援や将来設計支援、既存制度の利用促進も総合的なパッケージとして整理・発信していきたい。
- ・ 一つ一つの判断が難しいが、いただいた意見をもとに年末に向けてアウトプットを市としてまとめていきたい。

5. 閉会

以 上